

「心をつなぐ」 高齢者と子どもの世代間交流

石巻市鹿又地区第一・第二放課後児童クラブ
ショートステイ花水木



社会福祉法人一視同仁会 理事長
花水木施設長 放課後児童クラブ所長 遠藤早苗



目次

0 1

法人概要 1

0 2

取り組みの背景 2

0 3

具体的な取り組み 4

0 4

活動の成果と結果 12

法人名	社会福祉法人 一視同仁会
設立年月日	平成10年11月4日
本部所在地	宮城県石巻市
事業内容	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 短期入所生活介護 通所介護 訪問介護 居宅介護支援 地域包括支援センター 放課後児童健全育成事業 サービス付き高齢者向け住宅



取り組みの背景〈石巻市の概要〉

本市の高齢者人口は、令和3年2月末をピークに緩やかに減少

	男(人)	女(人)	総数(人)	構成比(%)
総数	63,672	67,335	131,007	
老年人口後期 (75歳以上)	10,558	16,148	26,706	20.4
老年人口前期 (65～74歳)	9,654	10,227	19,881	15.2
生産年齢人口 (15～64歳)	37,128	34,906	72,034	55.0
年少人口 (0～14歳)	6,332	6,054	12,386	9.5

「令和7年6月末 石巻市住民基本台帳より」

閉じこもり傾向

「要注意」14.7%「該当」9.4%
令和2年に比べ「要注意」は**4.4%増**

移動手段が限られている
コロナ禍による制限



地域で見守る体制に必要なこと

サロン（居場所）34.4%

寄り合える場所が必要

「石巻市高齢者福祉計画・
第9期介護保険事業計画より」

当法人が運営する放課後児童クラブは「鹿又小学校の放課後児童クラブ」

石巻市立鹿又小学校（児童数278名） 創立150年

明治6年に鹿又地区の寺を仮教場として創立した、宮城県内にできた第1号の小学校

----- 学校教育目標（三つの教え） -----

じぶんでせよ

ともにせよ

よくつとめよ

令和7年度 学校経営

変化に適応した教育を創造し、
一人ひとりに**居場所と絆**がある
魅力ある学校を目指す

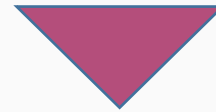


重点努力事項【家庭・地域との連携】

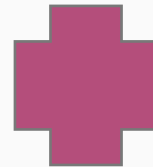
「**つながりのある学校づくり**」

地域の教育資源の活用と地域とともに作る特色ある教育
活動の推進

高齢者の幸せと生きがいのために支援すること
子ども達の落ち着きと優しさを育む世代間の「心を繋ぐ」ことを目的



花水木の利用者（高齢者）と 放課後児童クラブの子ども達
定期的な世代間交流



家族団らん
のような
世代間交流

【居場所】



居場所って何処だろう どんな所だろう

児童が模造紙に「好きな言葉」「夢」「好きな場所」
などを書き出し、地元ミュージシャンが歌にした



みんなの居場所

作詞 石巻市鹿又地区放課後児童クラブ

作曲 BROTHER

おやつのじかんになったころ
みんなでおへやにあつまって
いろんな言葉を書いてみた
そしたらこんな歌ができた
おはじきをして ゲームをして
みんなで笑いながら
サッカーもして ブランコもして
楽しい児童クラブ

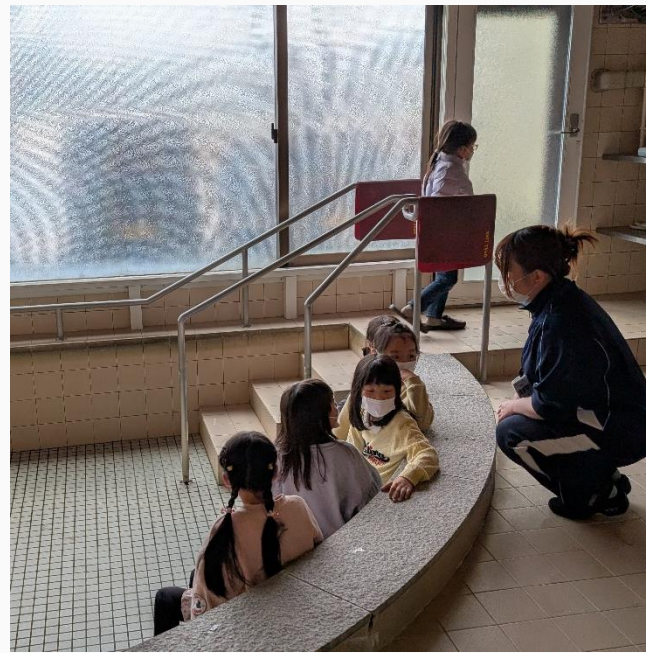
ケンカしてごめんね
なかよくしよう
ありがとう だいじょうぶさ
僕らは友だちだ

カワチィ（かわいい） ワクワク ウフフフフ
ナイシュー 金持ち ヒミツ基地

具体的な取り組み【事前学習】

福祉機器勉強会（講師：理学療法士、看護師、介護福祉士などの職員）

「車いす体験」「大浴場見学」「特殊浴槽体験・見学」「パワーリハビリ機器体験」「足こぎ車いす体験」など



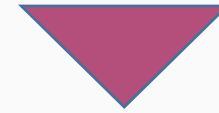
認知症サポーター養成講座（講師：認知症地域支援推進員の職員）

児童ができる認知症の方への配慮や接し方を勉強しました



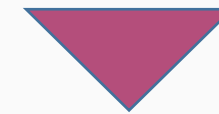
高齢者への優しさを発見！

利用者の目が見えていない事に気づいた児童は、自ら利用者の手を取って「仙台すずめ踊り」を教え始めた



居場所

おじいさん おばあさんの家



家族の団らんのような世代間交流

毎週金曜日、学校から児童クラブへ帰ってくる15時頃に、ショートステイへGO

「ショートに行く！」

遊びにきたよ



「マンカラ」「おはじき」「お手玉」「けん玉」「塗り絵」「折り紙」など

子ども達や支援員が物語や挿絵を考え、数か月かけて絵本10冊を手作り

「一緒に本を読もう！」



(1) 第 31735号 昭和24年1月10日第3種郵便物認可(大正元年創刊) 石 巻



子どもたちが手作り絵本を読んで聞かせた

手作り絵本で読み聞かせ 小学生と年配者が交流

石巻市鹿又地区放課後児童クラブに通う鹿又小学校の子どもたちが3月25日、敷地内にある特別養護老人ホーム「花水木」の利用者に向けて、手作り絵本の読み聞かせを行った。同校1・4年生10人が施設を訪ね、ショー

ム「花水木」の利用者が参加。子どもたちと児童クラブの職員が手掛けた10冊を読み聞かせ、中には3冊にわたる物語もあった。児童は、利用者に寄

ちいさな重機や 大きな安全

ヤマト一重機

石巻市鹿又字内田168 TEL 75-2755代・FAX 74-2419

り添うように一人一人に絵本を読んで聞かせた。菅井龍仁さん(10)は「文章を指差しながら読んだ。うまくできた」と笑顔。有史以前を舞台に長編を作った同校2年の齋藤新さん(8)は「話を考えたり絵を描いたりするのが好き。作るのも読むのも楽しかった」と話した。

利用者の武山米子さん(93)は「ちよつと読むのが早いときもあったが、みんな絵がとっても上手。子どもたちが元気でなにより」と語った。

児童クラブと施設は共に社会福祉法人一視同仁会の運営。普段から、子どもたちと施設のお年寄りと交流する機会を設けている。

【泉野帆薫】

石巻日日新聞 2025年(令和7年)4月1日掲載記事

石 巻 か ほ く

2024年(令和6年)4月9日(火曜日)

放課後児童クラブの歌 できた!!

鹿又小2～5年53人

紙に夢など書く 作詞に生かす

子どもたちのより良い居場所づくりにつなげようと、石巻市鹿又の鹿又地区第1放課後児童クラブが、地元ミュージシャンの協力を受けて、歌を作った。タイトルは「みんなの居場所」。鹿又小2～5年生の53人が将来の夢などを紙に書き出し、作詞に生かした。

子どもたちは6月25日、数人のグループに分かれて紙に「バレーボールを教わりながら遊びたい」「大好きなど、好きな言葉やクラブへの要望などを書いて、普段口でできない要望などを歌詞につくり出して書き起し、つなげるのが狙いだ。

2年生の近藤碧さん(8)は「保育園の先生、学校の先生になりたい」と書いたクラブで友達と遊ぶのは楽しいので、楽しい歌になつてほしい」と話した。

同市雄勝町を拠点とする2人組ミュージシャンのBROTHERは子どもたちが書き出した言葉を基に、作詞と作曲を手掛け、子どもたちの前で披露した。ゆ

雄勝拠点2人組ミュージシャン協力

「一視同仁会」のYouTubeチャンネルのQRコード。「みんなの居場所」メイキングや演奏風景を公開している。



「みんなの居場所」は、クラブの追藤草苗所長は「自分の言葉が歌詞に使われていることを経験して、もっと自分の意見に自信をもてることを目指している」と話した。

1月に市が発表した「子どもまんなか宣言」を受けて、子どもたちの居場所づくりを進めるきっかけにしようという曲作りが行われた。

「一視同仁会」理事長を務める、鹿又地区で運営する高齢者施設花水木(2月)、BROTHERのライブを開いたのをきっかけに今回の作詞作曲を依頼した。

完成した曲はYouTubeや交流サイト(SNS)で公開されている。

1月に市が発表した「こどもまんなか宣言」を受けて、子どもたちの居場所づくりを進めるきっかけにしようという曲作りが行われた。



紙に将来の夢などを書き起こす子どもたち

タイトルは「みんなの居場所」

石巻かほく 2024年(令和6年)4月9日掲載記事

具体的な取り組み【みんなが繋がる】

居場所：ショートステイ花水木（18床ユニット型個室 令和7年四半期稼働率91.2%）

放課後児童クラブ（登録者110名、第1児童クラブは施設に隣接、第2児童クラブは施設から400m）

定期的な世代間交流

贈り物

- 5月こいのぼり
- 花水木開所記念
- 七夕飾り
- 敬老の日

など

イベント

- スイカ割
- ハロウィーン
- クリスマス
- 節分
- 児童の特技披露
- すずめ踊り など

講師や支援は地域の方や花水木職員

- 読み聞かせ
- サッカー教室
- 絵画教室
- 音楽教室
- いけばな教室
- 料理教室
- 高等学校生徒と花の植え替え
- 国際交流（ウクライナ避難者）
- 石巻市出前講座
- こどもエコクラブ
- 「みんなの居場所」歌作り

など

家族団らんのような世代間交流 居場所

- ① 1グループ15人程度の縦割り
- ② おじいさん、おばあさんと遊ぶ内容は、子ども達が事前に考え、交流道具を持参し訪問する

- おじいさんやおばあさんの子どもの頃の話聞く
- 本を一緒に読む
- メンコ
- けん玉
- マンカラ
- 折り紙
- お絵かき
- ゲーム など

主任支援員の声「生きがい・希望・幸福につながって欲しい」

高齢者

生きがいを感じる

「今日は来る日だね」「今度はいつ来るの」と、子ども達が来る日を楽しみに待つ方々もいる。

意欲的になる

児童3人が認知症高齢者1人に「マンカラ」の手順を、丁寧に繰り返し教えると、自ら手を動かし手順どおりにコマを進めた

互いに尊重し合う

子どもの頃の思い出の歌を歌いながら児童の歌を聴く、お手玉を5個手に取り披露する方やけん玉やおはじきのやり方を教える方々もいる

笑顔が増える

普段は不機嫌なことが多い方も、子ども達を見ると優しい表情になり、「こっちにおいで」「名前は何というの」と話す

子ども達

優しくいたわる様子がうかがえた

普段は短気だったりケンカが多い児童も、高齢者に寄り添い絵本を読む様子があった。

高齢者を支援している

高齢者からの同じ質問に対し何度も優しく答えたり、聞こえにくい高齢者にも声の大きさを変えて話すなどしていた

高齢者を尊敬する

103歳の方がお手玉5個を操る技に歓喜したり、優しい綺麗な歌声に尊重し合う様子があった

孤立している子が馴染む様子があった

常に一人で過ごしている児童が、高齢者と一対一で会話し、高齢者が口ずさむ歌をじっくり聞いて寄り添う様子があった

- ① 1年生から3年生は、本取り組みに積極的であるが、4年生以上は好まない児童が三分の一程度いる
- ② 高齢者施設職員と児童クラブ支援員が、互いの利用者の情報が少ないことや、高齢者支援・児童支援の経験不足から取り組みに消極的な職員もいる

法人の取り組みを各QRコードご紹介しています

「**みんなの居場所**」をInstagramで公開しています。是非、聴いてください

花水木HP



HP

YouTube



YouTube

Instagram



Instagram

ご清聴ありがとうございました